人間関係講座（グループ）第83回［秋］

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	楠本　和彦（南山大学人文学部准教授） 土屋　耕治（南山大学人文学部心理人間学科講師）
概要	この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。１つの講座は２日間のプログラムで構成しています。 私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しい」ということをよく聞きます。その理由の１つとして、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合に、話や課題の内容（コンテント）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることが考えられます。 この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。 ①グループの中で他者と関わる自分の特徴に気づく ②「コンテント」と「プロセス」とは何かを理解する ③グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向ける重要性に気づく この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）と、グループに関する理論の小講義によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたい方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。 なお、この講座（または過去の人間関係講座＜グループ＞）を修了された方を対象に、グループの人間関係をさらに深く学ぶための「グループプロセス応用講座」が開催されます。（詳しくはこちらをご覧下さい）
日程	2011年10月15日（土）10：00～18：00 10月16日（日）9：00～17：00　土日集中
定員	各36名
参加資格	（※１）この講座は、ラボラトリー方式の体験学習を初めて受講される方を対象としたプログラムです。 （※２）[初回者優遇措置講座]：昨年度実施された人間関係講座（ｸﾞﾙｰﾌﾟ）を修了された方はお申し込みいただくことができません。ご了承下さい。
会場	南山大学　名古屋キャンパス　Ｄ棟
受講料	11,200円（税込）
メルマガ 講座報告	担当講師　楠本　和彦　記 10月15日（土）・16日（日）に第83回人間関係講座（グループ）が行われました。 参加者数は32名でした。ファシリテーターは土屋、楠本が担当しました。2日間に亘って、異なるタイプのグループワークにメンバーのみなさんは取り組まれました。 各実習後や2日間最後の全体インタビューでは、その実習での、あるいは、2日間を通しての学び・気づきとして、多くの方が印象的な言葉を語ってくださりました。 ファシリテーターとして、とてもうれしく聴かせていただきました。 アンケートに数名の方から、「ふりかえり用紙記入後、待っている時間があったので、その時間をわかちあいの時間として、使う方がよかったのではないか」という旨の感想がありました。この感想は、ラボラトリー方式の体験学習が重視している、ふりかえりとわかちあいに関することですので、以下に私見を記したいと思います。 上に記した、参加者の感想の趣旨を、私もよく理解できます。その上で、この講座を担当していた私の意図を記します。 ふりかえり用紙記入、わかちあいは、上にも記したように、ラボラトリー方式の体験学習では、体験からの学びのための重要な営みとなります。 私は、研修全体で比較的時間にゆとりがある場合には、参加者全員が、ふりかえり用紙記入を充分記入し終えるまで、できるだけ待ちたいと思っています。今回も基本的には、そのような姿勢でいました。ふりかえり用紙記入にかかる時間は、かなりの個人差があります。そのため、早く書き終えられた方には、待ってもらう時間がどうしても長くなってしまいます。そして、わかちあいもまた、できる限り、時間をとって、充分、伝え合っていただきたいと思っています。今回は、残念ながら、すべてのグループが、すべての項目をわかちあえるだけの、時間的ゆとりがない場面もありました。そのような時には、この項目までは、参加者全員のわかちあいが終わるのを、わかちあいの予定時間を延長しても待つという姿勢で臨みました。 上に記したことは、私見であり、ファシリテーターによって、様々な考え方がありえます。また、時間配分や状況など、様々な条件により、柔軟に判断すべきことだと思っています。 長くなりましたが、講座参加者の方々の、主体的な取り組みと、率直なフィードバックに感謝していることを、最後に記して、講座の報告を終わります。